

2025 年度全国学生調査の結果

1 調査の概要

期 間 2026 年 1 月 13 日(火)～2026 年 2 月 20 日(金)

対象者数 2 年生 162 人

回答者数 157 人(96.9%)

2 記述統計の結果

Q1(授業での経験)では、授業そのものへの評価は高い一方、個別フィードバックや補助的指導には改善余地がある結果となった(図 1)。

Q2(在学中の経験の有用性)では、経験した人の中では有用性を感じている人はいるが、経験者が少ないことが特徴である(図 2)。

Q3(知識や能力の習得)では、基礎的、実践的な力の習得感は強い一方、外国語や数理データ系は弱点として浮かぶ(図 3)。

Q4(学び全体の振り返り)では、教育の質や学びの成果の実感が高い一方、学生の声が教育改善にどう反映されているかの可視化には課題があるといえる(図 4)。

Q5(生活時間)では、授業への出席は時間がある程度確保されており、アルバイト・定職は比較的長時間を割く学生がおり、学外就労が学生生活の中で大きな比重を持っていることがうかがえる(図 5)。

Q1 授業での経験の選択割合(短大全体)

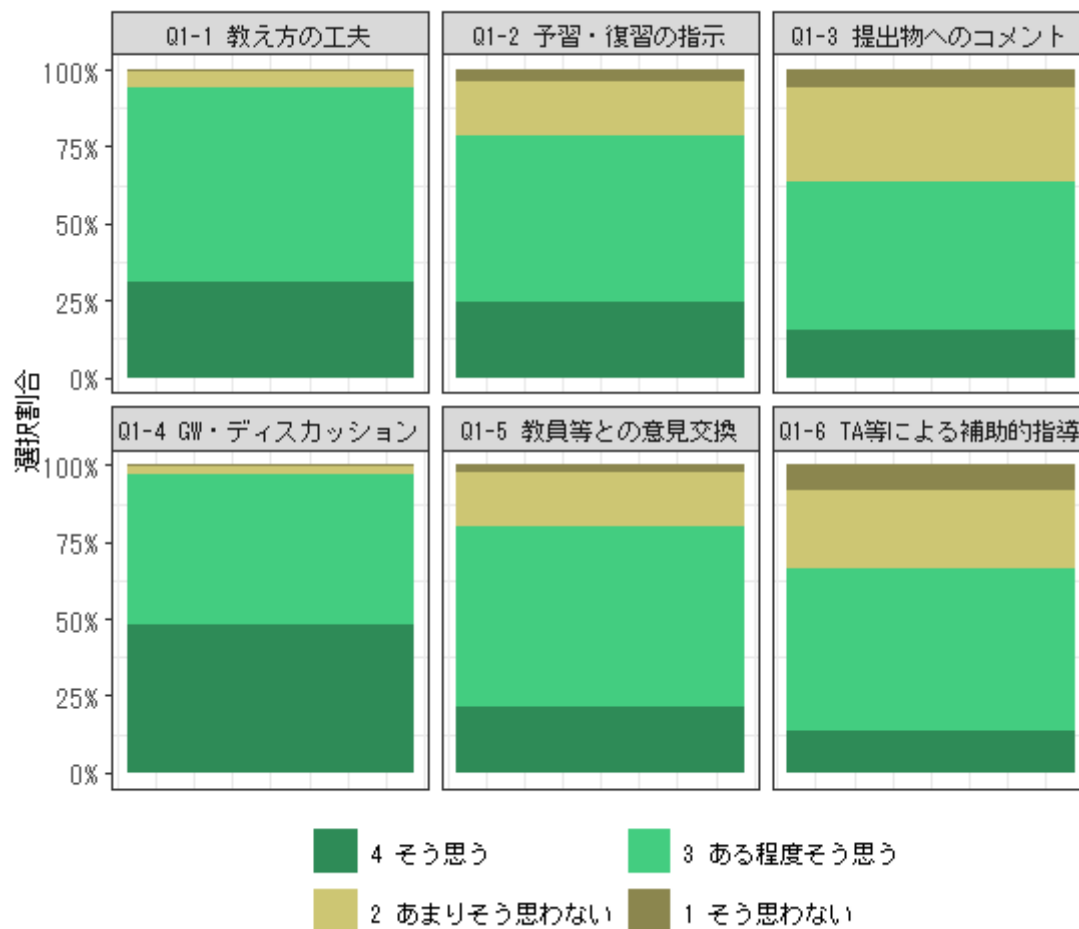


図1 Q1: 授業での経験

Q2 在学中の経験の有用性の選択割合(短大全体)

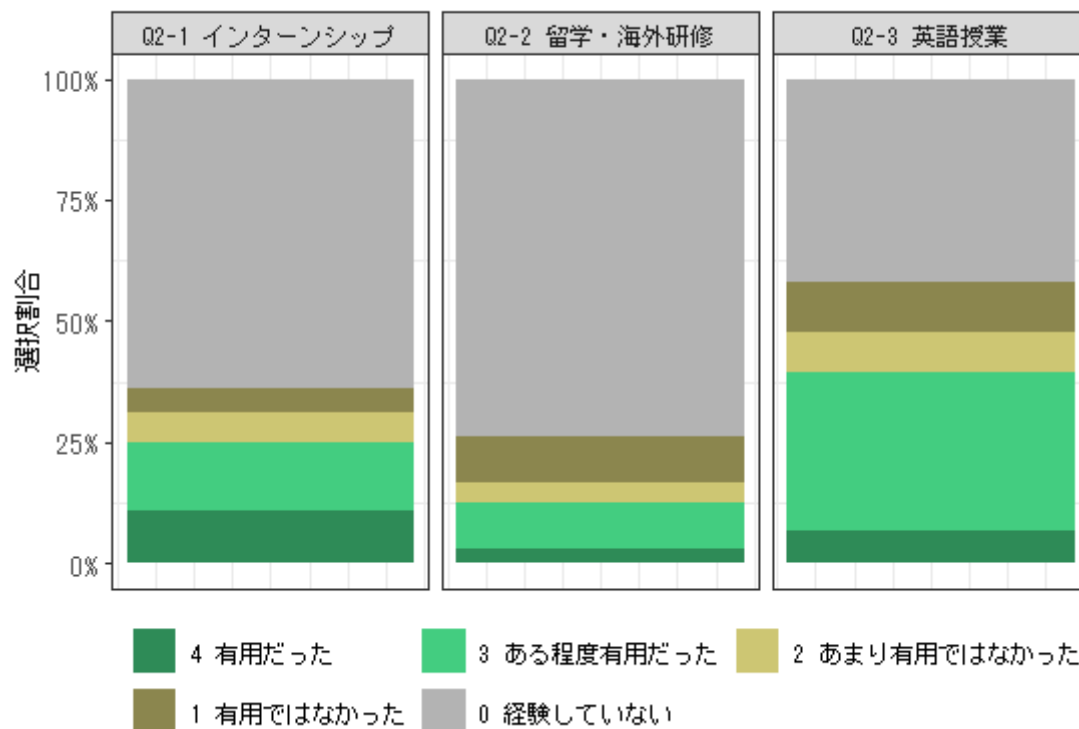


図2 Q2:在学中の経験の有用性

Q3 知識や能力などの習得の選択割合(短大全体)

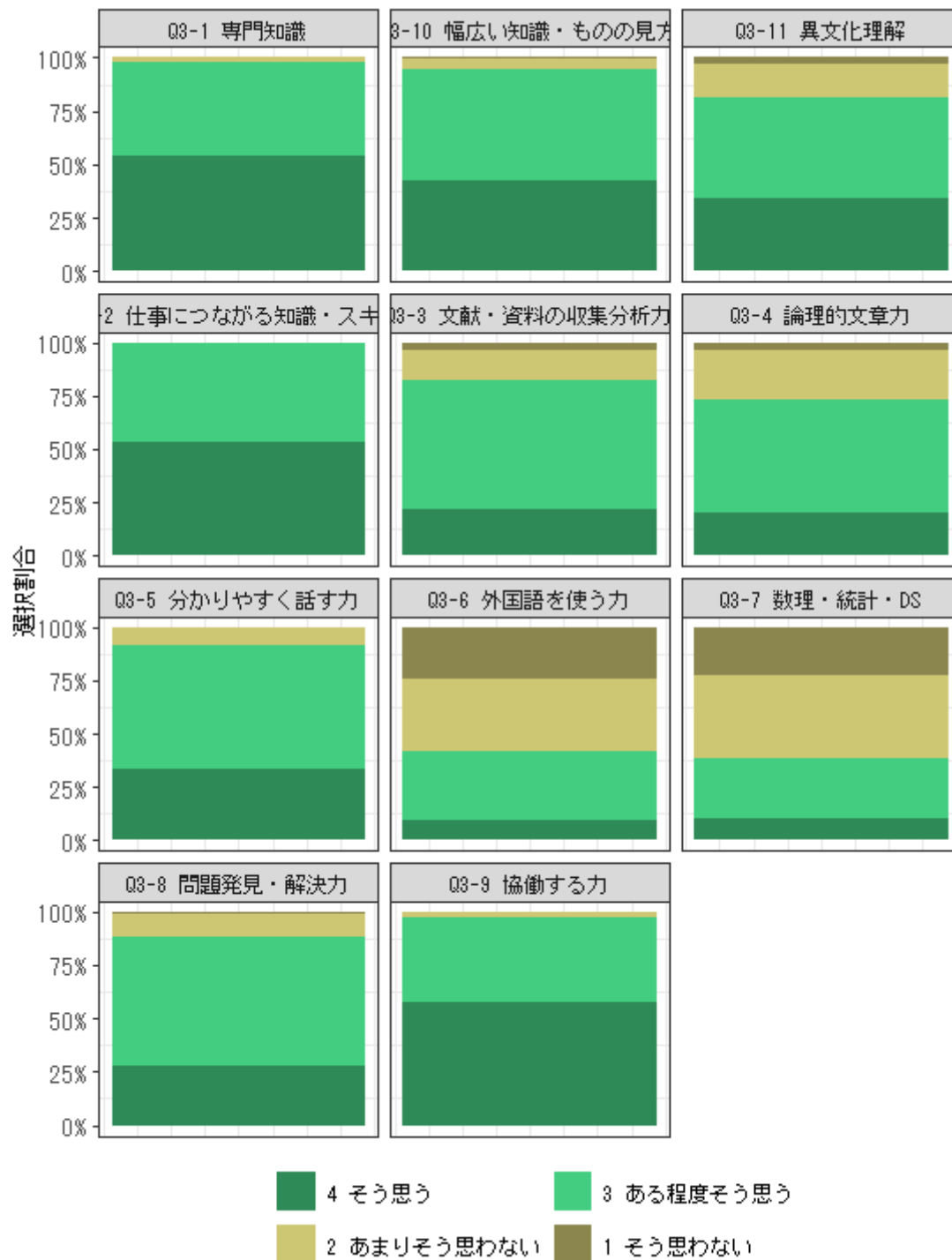


図 3 Q3: 知識や能力の習得

Q4 学び全体の振り返りの選択割合(短大全体)

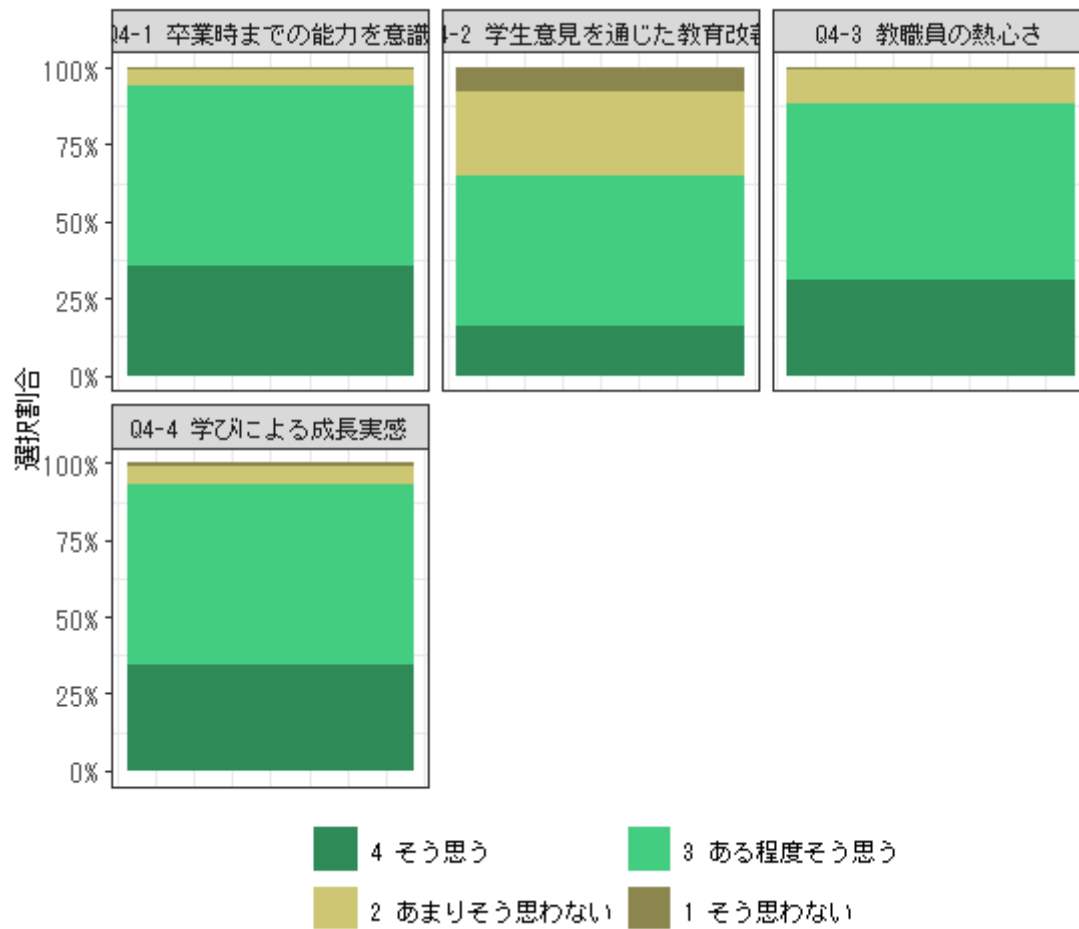


図4 Q4: 学び全体の振り返り

Q5 生活時間の選択割合(短大全体)

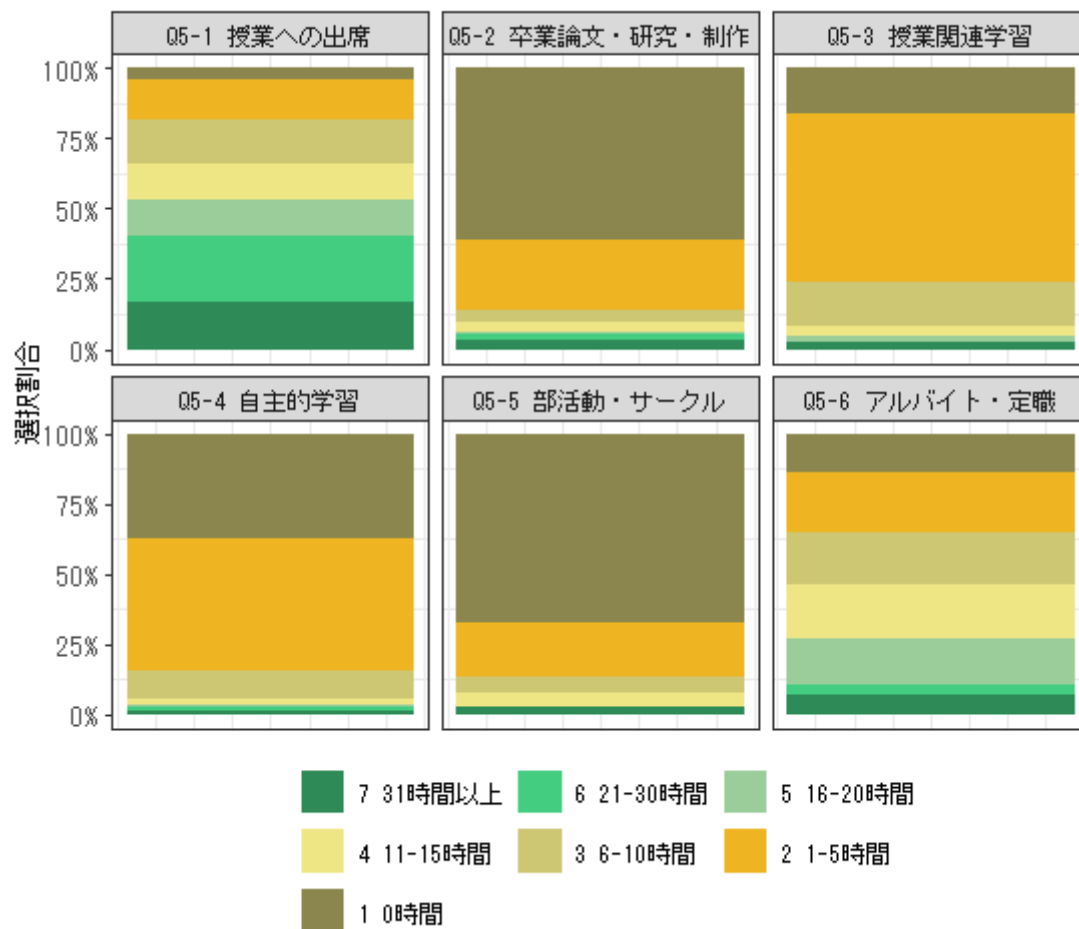


図 5 Q5: 生活時間